

いしもりいせき  
8. 石盛遺跡

所在地：福井市石盛町

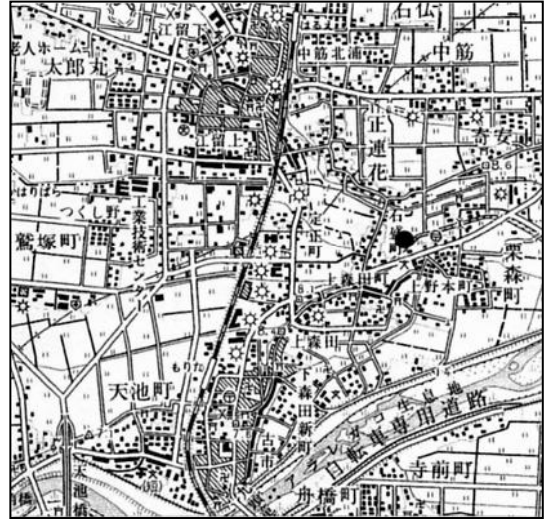
調査原因：国営九頭竜川下流土地改良事業

調査期間：平成 22 年 5 月 6 日～6 月 30 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：460 m<sup>2</sup>

時代：古墳・平安時代、中世



位置図 (S = 1/50,000)

**調査の概要** 福井市石盛町はかつて「石丸」と呼称された地域であり、『太平記』には城が存在していたことが記録されています。福井市教育委員会が石盛遺跡の一部を調査した際には、中世の堀跡などの遺構が多数検出されています。このことから、大規模な城館が遺跡内に存在していたことが裏付けられました。今回の調査箇所は遺跡の南東部にあたり、河合春近用水の右岸に位置します。調査の結果、中世の遺構面を 2 面確認しました。また、最下層において、古墳時代の土器を含む土層を確認しました。

**遺構** 上層の遺構面では調査区の西半部に黄灰色粘質土が広がり、この土層の上面において主要な遺構を検出しました。一方、調査区の東半部には河合春近用水に沿うように青灰色の粘質土もしくは砂質土が広がっていました。土層の状況から、調査区の東半部は湿地帯であったと推定されます。上層では、掘立柱建物 1 棟、溝 13 条、土坑 2 基などを検出しました。掘立柱建物は、長軸 2 間 (5.8m) × 短軸 1 間 (2.15m) をはかります。溝は、掘立柱建物の長軸と平行あるいは直交するように設けており、屋敷地を区画するためのものであったと考えられます。出土した遺物から、上層の遺構は 16 世紀代に属すると推定されます。

上層の遺構を検出した黄灰色粘質土の下にも青灰色粘質土が堆積しており、この土層の上面において下層の遺構を検出しました。これにより、上層の土層は湿地帯の岸辺を整地した土層であったと考えられ、湿地帯を埋め立てて生活範囲の拡大を図っていたことが判明しました。下層では、調査区の南側において溝を 3 条検出しました。溝の中には堀とも呼べる、幅 3 m、深さ 1 m をはかる大規模なものも存在します。出土した遺物がわずかであるため明確ではありませんが、下層の遺構は 15 世紀代に属すると推定されます。

**遺物** 遺物は上層・下層ともに出土量が少ないうえに、細片がほとんどでした。上層の遺物の大部分は遺物包含層と遺構からの出土でしたが、その多くは土師皿の細片でした。また、溝からは瓦質土器の火鉢が出土しています。下層でも遺物は遺構から出土しており、古墳時代の土師器、平安時代の須恵器、中世の土師皿・陶磁器類が混在していました。

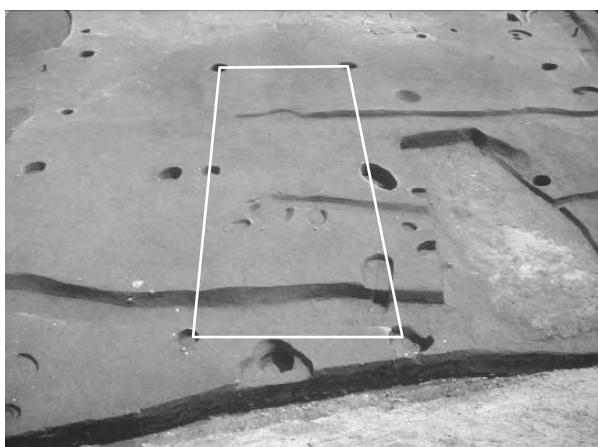
さらに、調査区にトレンチを設定して土層の堆積状況を確認したところ、最下層において古墳時代の遺物を含む土層を確認しました。この土層は、北から南に向かって傾斜して堆積

していました。遺物の出土は局所的であり、明確な遺構も確認できませんでした。このことから、最下層の遺物は周囲からの流れ込みの可能性が高いと判断されます。

**まとめ** 今回の調査により、石盛遺跡では中世を中心とした集落が展開し、東側に広がっていた湿地帯を随時埋め立てることで生活範囲の拡大を図っていたことが判明しました。検出した遺構および遺物は決して多いとは言えませんが、石盛遺跡の内容を明らかにするうえで貴重な資料が得られました。 (清水孝之)



上層遺構面全景



掘立柱建物（上層）検出状況



下層遺構検出状況